

新しい空港経営の可能性

—事業価値向上と PPP の実現に向けて—



日時：2011年6月27日（月）
14時～17時、受付 13時30分
会場：関西学院大学 大阪梅田キャンパス
アプローズタワー14階 1405室
〒530-0013 大阪市北区茶屋町 19-19

<プログラム>

司会：野村 宗訓（関西学院大学産業研究所長、経済学部教授）

14:00～ 開会挨拶、スピーカー紹介

14:10～ 「**空港会社の事業価値向上と PPP の手法**」（仮題）
Graham, Anne（グラハム、アン）（逐次通訳あり）
イギリス、ウエストミンスター大学、上級講師、博士

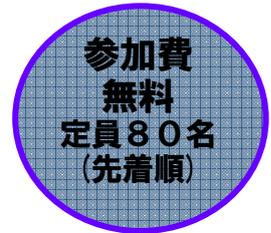
15:10～ 休憩

15:20～ 「**アジアにおける航空競争の将来**」（仮題）
全日本空輸 企画担当常務 篠辺修氏（予定）

16:00～ 「**アジアのオープンスカイと空港経営の課題**」（仮題）
東京工業大学 大学院理工学研究科 准教授 花岡伸也氏

16:40～ フロアからの質問

16:50～ 閉会挨拶



講演会開催の趣旨

昨年、国交省の成長戦略会議において、徹底的なオープンスカイの推進、首都圏の都市間競争力アップにつながる羽田・成田の強化や、民間の知恵と資金を活用した空港経営の効率化、バランスシート改善による関空の積極的強化などが提案された。

今春、関西国際空港と伊丹空港の経営統合が決定し、今後、運営権を譲渡するコンセッションも予定されている。国管理空港については「空港運営のあり方に関する検討会」で議論されているが、地方管理空港に関しても、存続可能性を探る時期に来ている。

本講演会では、従来とは異なる空港経営の手法を事業価値向上と PPP の実現という観点から分析する。まず、多様な所有形態をとる空港会社が、非航空収入増大や複数一括運営を重視しているイギリスの事例から、合理的な空港経営の手法について示唆を得る。

更に、オープンスカイを進めているアジア経済圏において、航空会社がかかるべき戦略や、空港会社が直面している課題を整理する。LCC やセカンダリー空港の評価を中心として、わが国の航空政策と空港政策で採用すべき方針を具体的に明らかにしたい。

主催：関西学院大学産業研究所

共催：(財)関西空港調査会

航空政策研究会

後援：(財)兵庫地域政策研究機構

参加 お申し込み（受付〆切 6月15日）

お名前(フリガナ)、ご所属、ご連絡先(E-mail 等)をそえて、メールまたは FAX にて、下記までご連絡ください。

e-mail: kouenkai-627@kwasei.ac.jp

FAX: 0798-54-6029

関西学院大学 産業研究所

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155

TEL: 0798-54-6127

